介護福祉士指定科目における科目間連携と
汎用性の高さに着目した映像教材の作成

野田由佳里[1)]*,松田愛美[2)],髙橋由紀[3)]松山美紀[4)],齊藤美由紀[5)]
[1)]聖隷クリストファー大学 [2)]神奈川県立保健福祉大学 [3)]北海道医療大学
[4)]国際医療福祉大学 [5)]日本福祉教育専門学校

Ⅰ．目的　介護福祉士養成課程で使用する科目間連携と汎用性の高さに着目した映像教材を作成し、コロナ禍で困難になった在宅介護実習にも活用するなど、介護福祉士養成教育の質に寄与することを目的とした。

Ⅱ．方法　取り組み期間を事前に四段階設定（アセスメント・計画・映像作成・映像の具体的使用例を検討）とした。研究グループの打ち合わせは主にリモート会議とした。

Ⅲ．結果　月に 1 回のリモート会議、数回のメール会議、対面では、キックオフミーティング（6 月 29 日）シナリオ作成ミーティング（10 月 28 日）を行い、4 事例とした。。動画撮影（11 月 11 日）では、60 シーンの撮影を終えることができた。12 月～1 月には成果物の活用方法について、3 回のリモート会議を実施した。

Ⅳ．考察　2022 年度の研修モジュールに参画したメンバー研究協力者で、介護職員役、高齢者役を演じた。研修モジュールの反省点から、時間管理や、事例設定が重要だという共通認識を持つことが、研究推進の要となった。具体的には、事例の基礎情報から丁寧に検討し、フェイスシート・情報収集シートに事例の情報を書き込み、それぞれの情報をもとに、コミュニケーション、移動、排泄、入浴、食事、着脱、清潔、余暇支援、対人関係（他利用者、家族）、良いケア、悪いケア、好きな職員、嫌いな職員、ベテラン職員、新人職員について撮影シナリオを作成した。使用科目を基軸にした内容を発展させ、事例を点や線で撮影することで、科目を敢えて選定せず、汎用性が高く、利活用のしやすさを重視した。ペーパーシミュレーション事例ではなく、一人の生活者をイメージできる事例動画の作成に至った。特に生活場面の細かいシーンが 60 種類あることで、分割して使用することや、想定していなかった生活支援技術、介護総合演習、認知症の理解での展開が可能となると考えた。看護師教育においては、教務主任養成講習会ガイドラインが質の向上と平準化を目的に改正されている。一方、介護教員は、「学び直し」と「自己研鑽」の必要性を感じているものの更新研修は存在しない。そのため、本研究の意義は、介護教員の研鑽の場所となり、シラバスや教育に含むべき事項の再確認により、教育力のブラッシュアップの一助になり得たと捉えている。今回撮影した動画の具体的な使用方法は検討途中である。目的であった利用者理解や、科目間連携を促すための学修プログラムに発展させていくことが直近の課題である。

Ⅴ．結論　介護教育の質を担保するため介護教員の研鑽は欠かせない。意思を同じくしている教員が集まって行う共同研究の意義を再確認できた。

学会発表：第 29 回日本介護福祉教育学会

倫理審査	□承認番号（　　）■該当しない
利益相反	■なし　□あり（　　）